



ロースクールの卒業を待たずに日本に帰ることにした。街はロックダウンし授業はオンラインになっていた。何度も行ったことのある食料品店で突然店員から「STEP BACK!! (下がって!!)」と大声で叫ばれたりもした。だからその頃見つけたツイートには励まされた。イタリア系アメリカ人の書いたものだ。「もしも誰かが中国を非難するのを聞いたら、そしてもっとあなたがアジア人でないなら、そいつのところへ行って喧嘩を売るのはあなたの仕事だ」というのだ。このツイートは5万5000回リツイートされ、31万6000件もの「Like」を集めていた。



日本へ帰る前日の夜、同じクラスのミェンが私の部屋を訪ねてきた。コストコのチーズケーキを持っている。上にほんの少しだけバタークリームではなく生クリームがのっているものだ。部屋にはもうソファも椅子もないので床に座って話をした。

彼女は今のところ故郷の中国に帰るつもりはなく、アメリカで就職先を探している。しかしフルタイムの仕事を見つけるのは簡単なことではない。1時間15ドルのオファーはあったが断ったそうだ。自分の生活費以上の収入が見込める仕事を探しているからだ。それは親から出してもらった学費と生活費を返すためだと言う。

私は日本で弁護士として働いて貯めたお金でこ

こでの学費や生活費を賄った。ありがたいことに第二東京弁護士会が推薦してくれたおかげで学費の負担を減らすこともできた(注)。彼女は大学を卒業してすぐにアメリカに来た。まだ若い彼女がどうして親にお金を返さなければいけないのか。彼女は、「そうしないと親と弟に悪いから、それとお金を返して自由になりたい」と言った。彼女に弟がいるのを初めて知った。中国には「一人っ子政策」があったはずだが、ミェンのときには緩和されていたのだろうか。彼女はその生い立ちを話して聞かせてくれた。それは普段の彼女の様子からは想像できないほど過酷な話だった。

最後に彼女はこう付け加えた。「両親との間で強い結びつきを築くことができなかった。そのせいかどうかは分からないが、両親以外の人も親しい関係になれない、尻込みしてしまう。こういう話も、これまで友達に一度もしたことがなかった。



模擬弁論の様子

キョウコに対してだけ、初めて、家族のことや恋愛のことを話せた。出会えてうれしい。それなのにこんな形で突然終わるなんて思っていなかった。」

私たちは夜中まで話し続けた。そして厳格なロックダウン下のサンフランシスコで、ラジオが毎日「ソーシャル・ディスタンス」を奏でるこの街で、最後にハグをして別れた。

大きなお別れパーティはできなかったが、小さなお別れはほかにいくつもあった。ナニーがハワイに移る前の日、部屋の片付けを手伝った。途中で疲れてしまった私たちは気付くと床に座り込んで取り留めのない話をしていた。何でもないそのシーンが写真に撮ったように胸に残っている。ひどく揺れる同じ船に乗った者同士の特別な連帯感のようなものがあった。私も彼女もお別れは言わなかった。「片付けが済んだら一緒に夕御飯食べよう」と言って部屋を出た。実際に私は具沢山の日本風うどんを作って待っていたが、結局深夜までパッキングが終わらなかつたようでそれきりになった。

ルーシーは東京行きの飛行機に乗る私に3M社製のN95マスクをくれた。チーも同じものをくれた。彼らはまだ当分アメリカに残るのに。もうこんな高性能のマスクはどうやってもここでは手に入らないのに。マスクを届けに来てくれたチーが軍需品かと思われる巨大なマスクで顔全体を覆っていたのには笑ってしまった。

最初に通った英語学校で知り合ったなをみさんとその夫が、車で空港まで送ってくれた。途中で巨大なターキーサンドイッチを買ってくれた。私が「こんな状況で、何もお礼ができなくて…」と言うと、彼女は「お礼なんてそんなこと考えなくていいのよ！」と笑った。彼らはグリーンカードを持っていて、もう日本に帰るつもりはないようだ。二人とも航空会社で働いていたことがあるから、今はデルタがどこから飛んでいるとか成田の滑走路が一つ閉鎖になったとかJAL便なら機内食

がどうのとか、とても詳しい。そういう話を聞いていると飛行機で旅をするときのあの懐かしい喜びが戻ってくるような気がした。



アメリカではこのパンデミックで50万人を超える人が命を落とした。それはもちろん9・11をはるかに超えて、第二次世界大戦の犠牲者よりも多い人数だ。アジア人としてロックダウン下のサンフランシスコに暮らすことは決して容易なことではなかった。でもその分得るものも大きかったと思う。2019年から2020年にかけて、私と友人たちの人生が確かにここで変わったという実感がある。

だから言いたい。もしもこの国で、外国人だとか外国から来たという理由で人を非難し不当な扱いをする人がいたら、前に出て六法でぶちのめしてやるのが私たちの仕事だ。



シュワルツ先生宅でのバーベキューパーティ

(注) 吉田京子会員は、当会が2017年度(大学年度)から開始したカリフォルニア大学ヘイスティングス・ロースクール(University of California Hastings College of the Law「UCヘイスティングス」)への推薦留学制度を利用して留学され、LL.M.課程学位を取得されました。当会の留学制度については<https://niben.jp/niben/guide/international.html> をご覧ください。また、当会会員の方で、同大学への今年度留学をご希望される方は、当会会員サービスサイトお知らせ欄 [https://niben.jp/member/news/2021/post\\_1302.html](https://niben.jp/member/news/2021/post_1302.html) をご覧ください。